

生きることは分かち合うこと、弱き者と

PHD LETTER

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT

PHD LETTER
Volume
140
2019.3

公益財団法人 PHD協会
2018年度会報140号

Girls, Be Ambitious!



2018年度研修生が帰国、お世話になった皆さんに感謝をこめて。

PH 2018年度研修生レポート

PHD LETTER Volume.140

Contents

- P.2-5 2018年度研修生レポート
 P.2 2018年度研修生 共通研修・研修旅行
 P.3-5 2018年度研修生レポート:サンダーモー、サビナ、レニ
- P.6 One year 2018年度国内研修生1年を振り返って
- P.7-8 **特集** 東南アジア・変わりゆく生活と健康 vol.13
 タランバブンゴ健康コンテストへの想い
- P.9-10 **PHD Movement** vol.23
 健康コンテスト (Lomba Kesehatan)
- P.11 日々は東奔西走
 P.11 **PHD SAVE NEPAL** ネパールPHD研修生里親 第3期募集
 P.12 PHD 活動紹介 2018年11月～2019年2月
 P.13-14 解説 ミャンマーの内戦について
 P.15 PHD News

PHD

PEACE, HEALTH & HUMAN DEVELOPMENT
 公益財団法人PHD協会

PHD運動とは1962年よりネパール、東南アジアを中心に医療活動に従事した岩村昇医師の提唱による国際社会福祉運動です。これまで自分のためだけに使っていた時間、技能、財などの10パーセントをささげ、平和 Peaceと健康 Healthを担う人づくり Human Developmentをすすめ、共に生きる社会をめざし、1981年からはじまりました。

PHD LETTER 140号

発行: 公益財団法人PHD協会
 住所: 〒650-0003 神戸市中央区
 山本通4丁目2-12 山手タワーズ601
 電話: 078-414-7750
 F A X: 078-414-7611
 E-mail: info@phd-kobe.org
 U R L: http://www.phd-kobe.org
 郵便振替口座: 公益財団法人PHD協会
 01110-6-29688

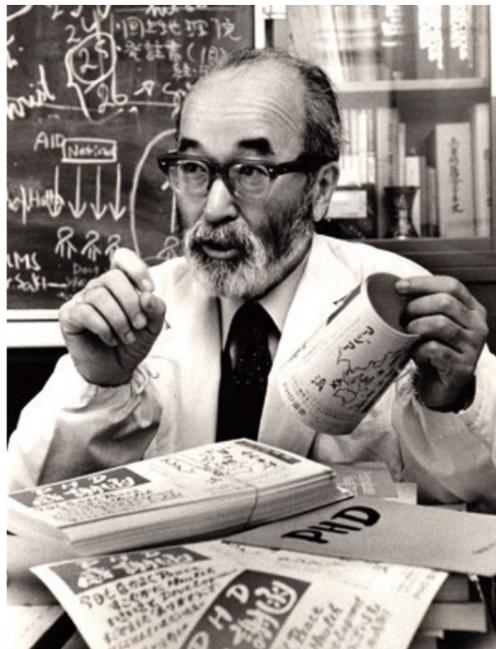


左からサビナさん (ネパール)、レニさん (インドネシア)、サンダーモーさん (ミャンマー)。東日本研修旅行にて、富士山を背景に。

表紙写真/2018年度研修生 遠藤響子さん(左:国内)、レニグスティカさん(中央左:インドネシア)、サンダーモーさん(中央右:ミャンマー)、サビナ・ピスンケ・ラムテルさん(ネパール) 神戸市 メリケンパークにて 「Girls, Be Ambitious! : 女性たちよ、大志をいざなひ」

～ 世界平和の実現に大切なことは「我慢」～

温故知新 岩村語録 その15



PHD 運動提唱者 岩村 昇先生
 (2018年3月3日帰国報告会にて岩村史子さんご提供の写真)

世界平和の実現をめざしていくうえで、私たちひとりひとりが最も心がけなければならないことは何なのでしょう。それは「我慢」だと私は思うのです。その「我慢」した分を、必要としている人たちと分かち合うことだと思ふのです。

私たち先進国のみんなが、毎日の生活の中で「食べたい」「買いたい」という欲望を抑え、その「我慢」した分を、発展途上国の人たちのために還元していくこと、それが世界平和を考える上で何よりも大切なことだと思ふのです。

「出典：共に生きるために アジアの医療と平和(1982) P25～26」

世界の資源は有限であることを踏まえると本質的な言葉だと思ふ。噛みしめて少しずつでも実践していきたい。(さ)



PHD 2018年度研修生レポート

日本での研修を無事に終え、2019年3月12日に帰国の途に着いたモーモーさん(ミャンマー)、レニさん(インドネシア)、サビナさん(ネパール)。研修を受入れてくださった方々、支えていただいた皆さま、本当にありがとうございました。学んできたことをふまえて、彼女たちが考えた出身地の課題とその解決に向けた活動計画についてご報告いたします。

芳田 弓生希=文

2018年度10月～2月の共通研修

- 生活協同組合コープこうべ 全2回
(神戸市・三木市/協同組合)
- 高藤真理さん 全7回
(神戸市/口腔衛生・防災研修)
- 防災研修 全9回 (神戸市/防災)
- 旅路の里 (大阪市西成区/釜ヶ崎社会学習)
- PHD協会 (神戸市/行動計画づくり)
- 山口勝弘さん(南あわじ市/果樹栽培)
- 淡路島モンキーセンター
(洲本市/残留農薬とリーダーシップ)
- 浜地歯科医院 全2回(神戸市/口腔衛生)

2018年度 研修旅行報告

東日本研修旅行 10月23日～29日

- 東京都 全日本自動車産業労働組合総連合、ユニセフハウス、ロータリー米山記念奨学会、日本労働組合総連合会、勝楽寺
- 山梨県 山梨英和中学校(YWCAひまわりクラブ)、山梨YMCAグループ
- 長野県 塩尻めぐみ幼稚園
- 神奈川県 青空自主保育なかよし会、山崎谷戸の会
- 岐阜県 ソロプチミストかかみ野、日本キリスト教団中濃教会
- 愛知県 椋山小学校、トヨタ自動車労働組合、想念寺、小牧幼稚園

西日本研修旅行 1月12日～25日

- 鹿児島県 かごしま有機生産組合、出水高等学校、だるま保育園、蕨島小学校

- 熊本県 水俣病センター相恩社、エコネット水俣、ほっとはうす、ガイアみなまた、菊池恵楓園、熊本市国際交流振興事業団
- 福岡県 北九州市交流会(旭ヶ丘会館)、祝町小学校、到津の森公園、世界平和バゴダ、アジアを考える会北九州、環境ミュージアム
- 山口県 梅光学院高等学校・中学校、岩国みなみワイズメンズクラブ、岩国YMCA国際医療福祉専門学校
- 広島県 広島平和記念資料館、共生庵、みらさか小学校、三次市交流会(灰塚コミュニティセンター)、みのり保育所
- 岡山県 YMCAせとうち、岡山キリスト災害支援室
- 兵庫県 姫路YMCAアフタースクール太子クラブ

PT2018年度研修生レポート

サンダーモー (モーモー)
ミャンマー / 31歳

子どもたちの暮らしを良くするために、楽しく勉強できる場を作りたい

主にバラウンという民族の子どもたち(3~15歳)が暮らすシュエグニ孤児院。特に小さい子どもたちは自分の民族の言葉しか分かりません。しかしシュエグニでの授業はビルマ語で行われるため、ビルマ語を理解できない子どもたちにとっては、ビルマ語はもちろん他の教科の勉強も簡単ではありません。シュエグニでの課題は、「教材を使って教えない」「休み時間が極端に少ない」「先生が一方向的に教える」「音楽や体育などの時間がない」事だとモーモーさんは考えます。日本の小・中学校で学んだことを活かして、まずモーモーさんが帰国後に取り組みたいことは、3~8歳の子どもたちに教材を使ってビルマ語を教えることです。その後は、他の教科も教材を使って教える→子どもたちが楽しく勉強できる→勉強ができる子どもたちが増える→暮らしが良くなるという流れを思い描きながらモーモーさんは活動をしていきます。

11月~3月末の研修

三木市総合保健福祉センター

(三木市/保健衛生)

三木市人権推進課(三木市/人権)

滞在:今西廣子さん、岩崎綾さん

ステップハウス(高砂市/ハンディーキャップケア)

滞在:神吉泰彦さん、道子さん

神戸市立井吹台中学校(神戸市/教育)

ひょうご部落解放・人権研究所、湊川高校

(神戸市/人権、識字教育)



井吹台中学校にて、図書館の展示を見学するモーモーさん。



「孤児院の子どもたちに良い教育と栄養価の高い食事を提供したい」(神戸市メリケンパークにて撮影)

シュエグニはビルマには、ベキヤウが
きらじな ことばたちが います。そして
たべもの のなにか じいわるじわがりま
せん。これをあらうとかはをみかくと
わからなして、ほくえんや がらうへ
けんしやうに じきました。ほくえん では
こどもたちが あそぶ、ほんをよむ、ひら
ねとか じろじろな じかんをきめて
します。はみかきや てあらじごはんの
たべかたとか うたも せんせいたちは
おしえました。ごはんをのくるひと
せんせいとおやが じいしに こども
たちの ことを かんがえて じい

ごはん を つくりまふ。ごはんをつくる
ひは うえじやうしで、おからうごでは
せんせいが きやうざじを つくって
おしえます。だから こどもたちは
よく わかるしたのしく べんきやうします。
すうと おしえなじです。こどもたちが
じいしには なしたり かんがえるじかん
があります。じかん おわったひ きやうけし
じかんが あります。ほんの がらうは
じろじろ べんきやうします。おんがくとか
かじいかとか スポーシで、お、ミャンマー
ご、おんがくとか ほなじで、お、せんせい
たちは きやうざじを あまりのかわなじ
です。

わたしはミャンマーにかえったら
① きやうざじを つくって おしえる
② おしはに なるたため のことを
おしえる
③ そして じろじろな こと じかん きめる
を かんがりたいとおもいます。

サンダーモー
ミャンマー

PT2018年度研修生レポート

サビナ・ビスンケ・ラムテル
ネパール / 21歳

村の女性たちに読み書きを教え、自分で考えて行動できるようにしたい

サビナさんが属するハラバラという女性グループにはメンバーが38人いますが、読み書きができる人は、サビナさんを含めてわ



高齢者向けの体操を体験するサビナさん。(三木市総合保健福祉センターにて)



「読み書きのできない女性たちに読み書きを教えたい」(神戸市メリケンパークにて撮影)

私のむらではみんなのうぎやうをして
います。でもわたしは かがとひりやうとのうぎ
を つかてのうぎやうをして います。ゆき
のうぎやうの こと を しらないです。私は
日本で ゆきのうぎやう べんきやうを しました。
ゆき ひりやうを つくる ことが てきまつ。
ひりやう は こめぬかとか はいと うしの
ういで つくる こと を べんきやうしました。
私は かんがえて から ゆきひりやうを つかて
のうぎやうを おしえ たいです。
わたしのむらには タリットの ひりやう
が すんで います。私のむらの おかあさん
たちは がらうに じろじろな こと を おしえて
います。おなかの こと を おしえて います。おなかの
こと 30-50さいぐらいの ひりやうが います。

でも ネパールで を よんだ り かい たい
で きません。おとこの ひりやうも たいへん だ け
おんたの ひりやうも たいへん です。どうして
は おんたの ひりやうで できない。という
さべつが あります。私は 日本で いじろな
は しに いました。70-80さいのおかあさん
たちが かんじの べんきやうを して いじろな
に いました。日本でも さべつのもんだい ありま
す。けんた いじろな グループで かんがって
います。私のむらにある おかあさんたちの グループ
で かんがりたいです。おなかの こと を かんが
たい ため に 日本で べんきやうした こと
じんけん の こと を おしえ たいです。これからの こと
たちの さべつな こと ため に かんがりたいです。

サビナ・ビスンケ・ラムテル
ネパール



LOMBA KESEHATAN Talang Babungo Sumatera barat Indonesia

上/"LOMBA KESEHATAN"はインドネシア語で「健康コンテスト」の意。コンテストの中休みにお茶を飲んで一息するPHDの一同。喜多野先生は右端。

下/コンテスト参加者を診察する喜多野先生(右)。タランバブンゴ滞在中、頻りに村人から診て欲しいと頼まれ、その度に先生は応じていた。



喜多野 章夫 (きたの あきお)
喜多野診療所院長。PHD 会員。昭和46年奈良県奈良市生まれ。平成8年広島大学医学部卒。同年大阪大学第四内科入局。平成14年奈良市で喜多野診療所開設。訪問看護、訪問リハビリステーション併設在宅支援診療所として地域医療に従事。

特集 東南アジア・変わりゆく生活と健康 vol.3

REPORT :

タランバブンゴ 健康コンテストへの想い

喜多野 章夫 喜多野診療所院長

進路に悩んだ高校生の頃、「代替の利く存在ではなく、根本的に誰かに必要とされ、感謝される大人になりたい」との思いから医師を志しました。医師となって大学病院で研修していたとき、ただの新米の私に、ついこの間まで学生であった私に、アイロンのかかってないシワだらけの汚い白衣の私に満面の笑みで忍び寄るスーツ姿の大人たち。製薬メーカーの営業の行列でいわゆる新米ドクターへの「刷り込み」が始まりました。最初に使い慣れた薬は自分の中に刷り込まれ、不勉強な医者はそれをずっと惰性的に使い続けます。製薬メーカーが新しい病気を作り、既存の病気への恐怖をメディアを使ってあおり、人々を病院に向かわせる。そして医者には統計学的に不十分なデータを数字のマジックで装飾してみせ、あの手この手の話題で懐に入り込み、自社の新薬が採用になれば勉強会と称して新地で豪華な食事を。教授までもが部下に使う薬を故意に指定してくる有様でした。医師として日々診察し、肌で感じる人体の営みとそんなメーカー主導の、薬依存のアメリカを模倣した日本の医療に違和感を抱き続けていました。「本当に必要とされる場所で働きたい」想いは海の外に向かいます。

そして初めての観光以外での海外、フィリピンのスモーキーマウンテン。そこで暮らす人々は確かに環境が劣悪でも、みな笑顔でたくましく、彼ら自身の文化や慣習、考えを持ち、日々を暮らしていました。何かを支援をしてあげようと意気込んでむかったものの、逆に色々教わり、考えさせ

られることがたくさんありました。風土や環境、政治的、地政学的背景に基づく一つの完成された生活スタイルがそこにはあり、まずはそれを知り、尊重し、こちらの知識や技術を融合させていく必要があると気がつきました。

そして一年後のインドネシア、初めての海外での診察。まったく予想していなかった健康に関する質問の嵐。携帯電話の普及で確かに情報は溢れているが医師の絶対数の少なさや病院へのアクセスの悪さから医師の診察を受ける機会に乏しく、皆さん様に不安を抱えておられました。血圧、糖尿病、高脂血症、高尿酸血症、胃腸障害...。ただその不安を薬のばら撒きで埋め合わせてはいけません。薬は一時的な代替手段で、生活習慣病は本来一部の遺伝性のもの以外は「生活習慣」が原因なのだから。そこで健康コンテストの発想が生まれました。

次の年、2018年9月に現地スタッフの協力を得て健康コンテスト開催となりました。体内年齢という体組成計を使って計測できる体重、身長から体脂肪率、筋肉量、内臓脂肪量といった体の組成を計測し、採血データと体力測定と組み合わせて優劣を競おうというコンテスト。当日は健康的と思われる40～50歳の女性が50名ほど集まり身体計測、採血を行い成績の良い10名を選出。最後はステージで体力測定をややゲーム的に行い成績優秀者を表彰するという流れでした。コンテスト自体はインドネシアの人々のノリよさに助けられて盛り上



健康コンテスト参加者の皆さん。

がり、成功を収めたと思います。

ただ健康的ではない人を、肥満度の高い人を、生活習慣の改善で薬に頼らずに健康的にするという本来の目的に今後方向性を定めて行きたいとも感じました。それに関しては日本のメタボ健診の流れと同じでまずはお臍の高さで腹囲を測定し一定以上の人のみ血圧、糖尿、高脂血症をチェックします。異常がある人をピックアップし、レクチャーし、一年後にその改善の度合いをコンテストで競ってもらおう。そんな催しに今後していきたいと思っています。

内臓脂肪(腹囲に増加)が生活習慣病を引き起こし、さらに脳梗塞や心筋梗塞などの重篤な疾患につながります。また体重の増加は膝や腰の負担になり確実に活動力を奪い、また体重の増加につながるという悪循環を生み出します。ただ「血圧が高いから薬を飲んでください」では無く、「薬で血圧を抑えている間に生活習慣を見直しましょう」なのです。それが他の病気の予防につながり漫然とした薬漬けの日々から脱却につながるのです!たしかに遺伝的要素の強い、体質的な人もいますので全てがそれを解決するわけではありません。でもまずは試みるべきことだと思います。

メタボリック症候群は経済発展著しいインドネシアを含めた東南アジア諸国で今後必ず大きな問題になってきます。私の目標としてはこのコンテストでタランバブンゴの疾患罹患率が下がり、それが良いモデルケースとなり、他の村、さらにはインドネシア全土に広がっていけば素晴らしいと思います。



左上/タランバプンゴ健康コンテストプレゼンターの二人。右は事務局長の坂西、左は34期研修生のリンダさん。
 右上/バランス検査の練習をする参加者。
 左下/コンテスト優勝者Agusnila Wanisさん。
 右下/そろいのユニフォームを着て、記念撮影するコンテストのスタッフ一同。多くの元研修生が運営に参加してくれた。



握力測定中のコンテスト参加者。周囲も興味津々。

PHD Movement vol.23

健康コンテスト (Lomba Kesehatan) ～ あなたの体は何歳？ 実施報告 ～

3月の会報137号の本項 (PM Vol.20) で計画を掲載した健康コンテストを元研修生たちと協力して実施したので報告したい。

コンセプトは「正論は人を動かさない、だから楽しく健康について考え、行動変化へ向かおう！」だった。詳細はPM Vol.20で記載した通りだが、「楽しく」がキーワードで現地のコンテスト好きな風習を踏まえて、大掛かりなイベントを開催した。コンテストの監修は前ページで寄稿いただいた喜多野医師である。

準備段階

まず開催予定は9月9日(日)だったが、実際には9月11日(火)となった。台風24

号による関空閉鎖がその理由である。予定どおりに出国できなかったため、医療専門家を含む日本チームが間に合わず、急遽2日延期しての開催となった。加えて当日は雨にも関わらず42名もの女性が参加してくれた。

開催概要

日時：2018年9月11日(火)

場所：タベ村協働組合

参加者：40～50歳の女性42名

検査項目：

A. 基礎検査：身長、体重からBMI (身長と体重から肥満度を示す体格指数)、体内年齢を測定、他には基礎代謝、内臓脂肪、骨格筋率、血圧、心拍数も測定
 →体内年齢が50歳未満の人がBへ

事務局長 坂西卓郎 = 文
 ～分かち合い実践録～

- B. 血液検査：HbA1c (糖化ヘモグロビン)、CHOL (コレステロール)、TG (中性脂肪)、HDL (善玉コレステロール)、LDL (悪玉コレステロール)、Non-LDL (動脈硬化惹起性リポ蛋白中コレステロール)
 C. 体力測定：握力、片足立ち、反射神経の3種目

結果：

- 1位 Agusnila Wanisさん 42歳
 体内年齢42歳：血液項目1位
 2位 Radhia Hilmaさん 42歳
 体内年齢20歳：体内年齢1位
 3位 Ermidaさん 43歳
 体内年齢47歳：体力測定1位

成果

結果はきれいにそれぞれの項目で一位の方がバランスよく1, 2, 3フィニッシュとなった。体内年齢トップはなんと実年齢より22歳も若いという結果。結果発表時に大きな歓声が沸き起こった。また体力テストもそれぞれ大盛り上がりで、コンセプトの「楽しく」をうまく形にすることができた。

また準備段階から現地では健康コンテスト実行委員会が組織され、研修生だけでなく、住民福祉ボランティア、幼稚園の先生、小学校の先生などが参加してくれていた。当日は参加者だけでなく、市長、地域医療センター長、MISタベ校長先生、各村の村長、タベ

村協働組合長、家族健康栄養課長などの来賓、歌のコンテスト参加者、審査員の歌手などが参加してくれており、総勢は優に100名を超えた。多くの方が参加してくれたことで地域全体を巻き込んだイベントになった。実際に実施後もコンテストのことがあちこちで話題になっていたようだ。

2019年度に向けて

一方、反省点は健康な方を表彰することができたが、肝心の健康に課題がある人たちに十分にアプローチできなかったことが挙げられる。ただ現地からは「来年もやってほしい、ぜひ男性も」という声が多く寄せられた。2018年度の取り組みで健康意識の啓発はできたと



コンテスト当日は地区中の多くの住民が訪れた。

思うので、2019年度はこの課題にも切り込みたい。また次回も日本から一般参加できるように体制を準備中である。興味のある方はぜひ参加いただきたい。[ツアー詳細「PHDNews」P15](#) →

日々是 東奔西走

研修担当
芳田弓生希

「熱い思いが溢れ出る」

モーモーさん、レニさん、サビナさんと過ごした一年、それぞれの成長を間近で見ることができました。

「私は日本語が上手じゃないから」と最初は積極的に話しかけ

られなかったモーモーさん。表情は硬いものの、いつも全体に目配りをし、さりげなく手伝ってくれていました。しかし研修を一つ終える度に、表情はやわらかくなり、気持ちにも大きな変化が見られ、時には「一人は無理。一緒をお願いします。私は日本に来て大きな子どもになりました」と冗談混じりで大笑いするほどに。

年度後半になると、保育園や学校での研修を経て、マンマーでの自分の子どもへの接し方やシュエグニの子どもたちの事を考えては涙ぐむことも多々ありました。シュエグニの子どもたちのためにできることをずっと考えて過ごしてきたのです。

3月2日に行われた帰国報告会で、溢れ出す自分の思いを時には涙混じりに伝えようとする姿がずっと心に残っています。「日本の先生

はとても気持ちが良いです。本当にすごいよ。私はシュエグニでは忙しいから気持ち良くないです。よく怒ります」とモーモーさん。私も時々気持ちを長く持つことができなかつたと反省しています。研修担当をさせてもらえる幸せを感じつつ、彼女たちとともにもっと成長していきたいと思います。



モーモーさん(右端)と元職員高藤さん(中央右)、レニさん(中央左)、サビナさん(左端)

PHD SAVE NEPAL

ネパールPHD研修生里親 最終年度 第3期募集

ネパール大震災から約4年。被災地復興のために奮闘するPHD研修生をサポートする「ネパールPHD研修生里親制度」は最終年の第3期を迎えます。最後の年、研修生をサポートしていただける里親さまを募集しています。

八木 純二 = 文

ネパールPHD研修生里親制度

里親 1年間1口
50,000円より募集

研修生 1年分活動費
250,000円(5口分)

研修生生活費の目安は年間給与として、2万円×13ヵ月。(伝統祭りの際の支給賞与を含む。)管理費はPHD協会負担。

第3期として募集するのはランマヤさん、ムクさん、カンチさんの3名になります。



カンチさん 2015年度



ムクさん 2014年度



ランマヤさん 2012年度

ご協力をお願いいたします。



詳細は
QRコード(左)
からアクセス!

PHD 活動紹介 2018年11月～2019年2月

- | | |
|---|--|
| <p>11月</p> <p>1日 定例スタッフ会議 (坂西、中西、八木) CWS小美野さん来訪 (坂西) のぞみ保育園 交流会 (高藤)</p> <p>3日 ひょうご五国ワールドフェスタ (中西、濱)</p> <p>4日 ひょうご五国ワールドフェスタ (坂西、濱) 今井鎮雄 初代理事長 召天日</p> <p>5日 大阪女学院短期大学 タイ・スタディツアー事前授業 (坂西、芳田)</p> <p>6日 プラス・1ネット西山さん来訪 (坂西) 元国内研修生松田洋子さん来訪 (坂西、川原) ぐるっとワールド in Miki : NGO相談員 (坂西)</p> <p>13日 NGO-JICA協議会 (坂西)</p> <p>14日 国際高等学校 講演 (芳田、酒井) わたしたちの難民問題 (坂西) 小林税理士来訪 (坂西、古寺)</p> <p>16日 川西ロータリークラブ例会 (演)</p> <p>17日 第19回NGOスタディツアー合同説明会 : NGO相談員 (中西、八木)</p> <p>18日 ロータリー米山記念奨学会 日本文化セミナー (演)</p> <p>19日 NGO相談員会議(～20日) (坂西)</p> <p>23日 伊丹ロータリークラブサンクスギビングデイ (演)</p> <p>22日 ネパール出張(～29日) (坂西)</p> <p>26日 神戸NGO協議会 (中西)</p> <p>27日 明石城西高等学校 講演 (芳田) PHD運動提唱者 岩村昇 召天日</p> <p>28日 篠山ロータリークラブ例会 (演)</p> <p>29日 加古川中央ロータリークラブ例会 (演)</p> <p>30日 香里ヌヴェール学院 交流会 (中西)</p> <p>12月</p> <p>1日 定例スタッフ会議 (坂西、中西、八木) シンポジウム「神戸と難民」(坂西)</p> <p>4日 尼崎西ロータリークラブミーティング (坂西)</p> <p>5日 ユニセフ評議員会 (坂西) 河合さん来訪</p> <p>6日 ESD修学旅行東北学院高校 交流会 : NGO相談員 (八木)</p> <p>7日 浜地先生来訪</p> <p>9日 神戸YMCA国際協力募金 (坂西)</p> <p>11日 小松島チャペル 交流会 (坂西)</p> <p>12日 徳島大学 講演 : NGO相談員 (坂西) 神戸国際交流フェア会議 神戸YMCA国際委員会 (坂西)</p> <p>14日 神戸親和女子大学 (坂西)</p> <p>15日 SDGsday (酒井) 飯田税理士来訪 (坂西、中西) 川西ロータリークリスマス家族例会 (演)</p> <p>18日 理事会・評議員会・役員懇親会 (坂西、中西、八木、濱、酒井)</p> <p>19日 篠山ロータリークリスマス家族例会 (演)</p> <p>20日 加古川中央ロータリークリスマス家族例会 (演) ESD拡大運営委員会 (八木) マイチケット スタディツアーCM動画サビナ撮影 (坂西、濱)</p> <p>21日 ブータンハウス訪問 (坂西)</p> <p>22日 ブータン青年海外協力隊30周年 (坂西) PHD協会 大掃除 (全員) 研修担当職員募集説明会 (坂西、中西、八木、芳田)</p> <p>24日 ワンワールドフェスティバルfor youth : NGO相談員 (坂西、八木)</p> | <p>職員高藤送別会 (坂西、高藤、芳田)</p> <p>27日 名古屋大須ロータリークラブ/星城中学校 講演 (坂西)</p> <p>29日 2019年度計画検討会議 (坂西、中西、八木、芳田) 中野宗嗣さん宅餅つき (坂西)</p> <p>1月</p> <p>5日 定例スタッフ会議 (坂西、中西、八木)</p> <p>8日 HYOGON賀詞交歓会 (坂西)</p> <p>9日 休眠預金がやってくる (坂西) 篠山ロータリークラブ新年例会 (演)</p> <p>10日 加古川中央ロータリークラブ新年例会 (演)</p> <p>11日 川西ロータリークラブ新年例会 (演) NGO-JICA協議会 登録NGOの集い (坂西)</p> <p>12日 近畿ESDフォーラム : NGO相談員 (中西)</p> <p>15日 出水高等学校 講演 : NGO相談員 (坂西)</p> <p>15日 藤島小学校 講演 : NGO相談員 (坂西)</p> <p>17日 ジョイラックディ 熊本市国際交流振興財団 : NGO相談員 (坂西)</p> <p>20日 リレー報告会 ネパール地震被災地への復興支援をふりかえる (八木)</p> <p>23日 コムテックスさん来訪 (坂西)</p> <p>26日 研修担当職員募集説明会 (坂西、中西、八木、芳田)</p> <p>28日 研修担当職員募集説明会 (坂西、八木、芳田)</p> <p>29日 渋谷高等学校 講演 : NGO相談員 (芳田) マイチケットインドネシアシュミレーション (坂西、八木、濱)</p> <p>30日 JOCAキャリア形成セミナー (酒井)</p> <p>2月</p> <p>1日 関西学院高等部 礼拝/授業 : NGO相談員 (坂西、濱) 川西ロータリー例会 (演)</p> <p>2日 ワンワールドフェスティバル : NGO相談員(～3日) (坂西、中西、八木)</p> <p>3日 NGO支援制度説明会 (坂西)</p> <p>4日 学習小学校 交流会 (芳田) 志筑小学校 交流会 (芳田)</p> <p>5日 阿万小学校 交流会 (芳田) 大阪女学院短期大学 タイ・スタディツアーオリエンテーション (酒井)</p> <p>7日 第42回 神戸市地球環境市民会議 (坂西) 定例スタッフ会議 (坂西、中西、八木、芳田)</p> <p>11日 NPO法20年全県フォーラム (坂西)</p> <p>12日 運営協力委員会、予算理事会・評議員会 (合同) (坂西、中西、八木)</p> <p>13日 神戸市シルバーカレッジ国際交友会の会 交流会 (芳田) くすのき福祉事業協同組合 塚口さん来訪 (坂西、濱、中西) プラス1ネット西山さん来訪 (坂西) 神戸国際交流フェア説明会 (中西)</p> <p>14日 神戸ポートワイズメンズクラブ卓話 (坂西、中西) 加古川中央ロータリークラブ例会 卓話 (演) あいくるAICL野瀬様来訪 (八木)</p> <p>18日 タイ・スタディツアー(～27日) (芳田、坂西、酒井)</p> <p>21日 神戸NGO協議会 (中西)</p> <p>22日 川西ロータリー例会 (演) 伊丹市人権啓発センター サビナさん交流会</p> <p>26日 休眠預金成果勉強会 (坂西)</p> <p>27日 小林税理士来訪 (坂西、古寺) 篠山ロータリー例会クラブ(卓話) (演) レニ 篠山ロータリークラブとのお別れ会 (演) 性暴力被害者支援センター・ひょうご サビナさん交流会</p> <p>28日 HYOGON運営委員会 (坂西) 定例スタッフ会議 (坂西、中西、八木)</p> |
|---|--|

REPORT :

解説 ミャンマーの内戦について

1948年の独立から約70年間続くミャンマーの内戦は、世界で最も長い武力紛争の一つと言われている。ロヒンギャ問題以外、あまり日本で報道されないその情勢をまとめた。

坂西卓郎=文

モーモーさんの夢

138号で報告したようにモーモーさんは内戦被害者が集う孤児院で100名前後の孤児のお世話をしている。それは24時間体制で、食事から勉強、健康、しつけまで多岐に及ぶ。その姿は母親代わりのように映る。

だが、実はモーモーさんには別の夢があったそうだ。それは「公務員になること」。貧しい家庭の中で初めて大学を卒業したモーモーさんは家族にとっての期待の星、本人にとっても家族にとっても悲願だったそうだ。彼女の頑張りでその夢は手が届くところに来ていた。しかし、ご存じのように兄であるお坊さんからの求めに応じて、孤児院に来て早5年となる。30歳を迎えたモーモーさんは年齢制限に抵触し、もう公務員になることはできない。その胸中を聞いたところ「最初は悲しかった。料理を作るのも上手じゃなかったし。でも、今は子どもたちがかわいい」と語ってくれた。

世界で最も長い武力紛争

戦争は悲劇しか生まない。親を亡くした孤児たちはもちろん、モーモーさんも夢を諦めざるを得なかった。その内戦は誰がどのような目的で行っているのか、情報が限られており正確なことはわからないが、この一年で入手した情報をここにまとめたい。あくまでPHD協会調べ、正確な情報があればお寄せいただければ幸いだ。

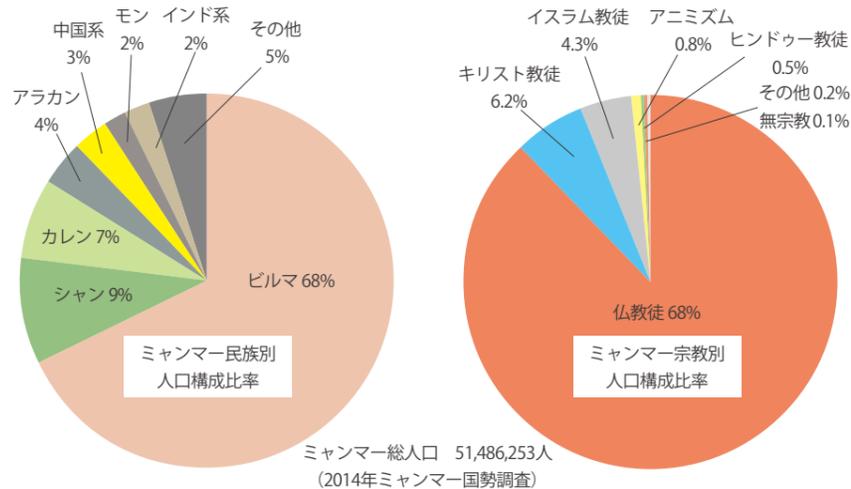
まず内戦はミャンマーが独立した1948年から約70年に渡って続いている、世界で最も長い武力紛争の一つと言われている。

次に誰と誰が闘っているのかであるが、基本的にはミャンマー国軍と少数民族の武装グループである。国軍は複数の少数民族と紛



モーモー先生とシュエグニ孤児院の子どもたち

【 ミャンマー民族別・宗教別人口構成比率 】



上二つの人口構成割合を示す円グラフはアメリカ中央情報局(CIA)発行の「The World Factbook(Web版)」及び、2014年3月のミャンマー国勢調査による。2014年国勢調査の後、社会の緊張を煽る可能性があるとして、民族別、宗教別人口構成の発表は先送りされた。結局、宗教別人口構成が発表されたのは2016年7月である。また、民族別の人口構成に関しては国勢調査の結果が2019年2月においても確認できなかったためCIAの「The World Factbook」によらざるを得なかった。

争状態にあり、ロヒンギャ問題は日本でも報道が多いが、その他の紛争はほとんど知る機会がない。モーモーさんの孤児院に来る子どもたちはシャン州と中国との国境沿いのナムカンという地域から来ており、そこではワ、パラウンという民族が武力闘争を展開している。

内戦の原因

少数民族の目的は主に次の4つと言われている。

1. 政治参加
2. 経済的権利
3. 社会的・文化的・宗教上の権利
4. 人道主義的側面

それぞれを紹介するスペースはないが、上記はミャンマーが軍政だったところからの課題である。ひどい話としては、少数民族を捕まえて地雷原を歩かせ、地雷発見装置代

わりにさせたという話も聞く。他にも強制移住、裁判を得ない処刑、拷問、レイプ、土地の没収、強制労働などの人権侵害が行われてきた。そういう状況を改善すべく少数民族の人たちが立ち上がったという構図だ。あるカチン民族のリーダーの言葉を紹介したい。「民族の権利が認められなければ平和は来ない。民族の権利が認められなければ民主主義はありえない」。

内戦の起点?ピンロン協定

では、その起点はなんだろうか。調べた限りでは「ピンロン協定」が起点の一つに思える。

1947年2月12日にピンロンである会議が開かれた。会議には独立運動の指導者アウンサン(アウンサンスーチー氏の父親)と少数民族の代表らが会談し、少数民族



上/マンダレーにある上座部仏教の寺院トドー・パゴダ。ミャンマー国民の多くが上座部仏教を信仰している。(日本の仏教諸宗派は大乗仏教に分類される。)

下/2017年度のタンタンミエさん(写真中央右)と家族。彼女の父親(写真中央左)は国軍の退役兵であり、地雷を踏んだために左足を失った。タンタンミエさんの村(シャン州コンソン村)には、こうした手足を失った退役兵が少なからず暮らしている。

の自治権を認めた。しかし、同年7月にアウンサンが暗殺され、認められた自治権は大幅に制限されてしまった。

また、会議の調印者は23名であるが、内訳はシャン14名、カチン5名、チン3名、そしてアウンサン将軍である。ミャンマーは135の民族でなる多民族国家であるが、カレン、モン、カヤー、アラカンなどその他多くの民族はこの会議に参加していない。

ピンロン協定の日は今も国民の祝日として祝われているが、調印により多くの民族が参加し、アウンサン将軍の暗殺も無ければ違った未来があったかも知れない。

武装組織への不満?

では、武装組織は一般市民から全面的に支援されているのか、と言うとそうでもないようだ。とかく戦争はコストがかかる。

生産性が全くないのだから当然の帰結として、資源は地元住民に依存している。

1. 資金
2. 新兵の補充
3. 情報
4. 食料

特に新兵の補充は要だが、一家族につき、少年一人と定めている場合もあり、モーモーさんの孤児院にも内戦に参加するために、地元へ帰る子どもたちもいるという悲しい現実がある。

よって、何十年にも渡って内戦の矢面に立たされてきた住民には戦争疲れや武装勢力に対する不満も存在している。

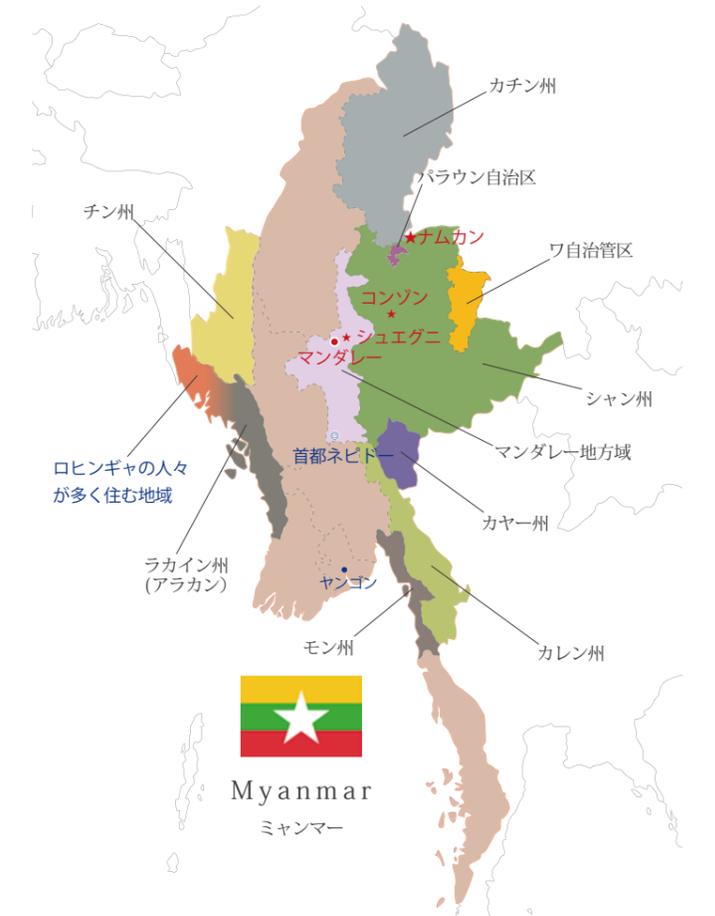
今まで記述した以外にも国際社会や中国の存在、軍政時代の負の遺産など様々な要因が複雑に絡み合っているようだ。しかし、最も大事なものは、内戦の一番の被害者は

一戦争すべからくそうだと思うが一般住民であるという事実だ。一説によると死者は数万人に及んでおり、国内避難民は50万人以上になるという。いまだに国境を越えて逃れる難民も多いと聞く。内戦が終わらない限り戦災孤児は生まれ続けることになる。

今後の希望

2018年12月21日にミャンマー国軍が翌2019年4月までの停戦を発表した。きっかけは外圧で、ヨーロッパ連合(EU)が東部シャン州を含む国境地域での人権侵害に深い懸念を表明し、責任を負う国軍に追加制裁措置を出した。現在は一時的な停戦であるが、恒久的な停戦になることを期待したい。

【参考:「ミャンマーの少数民族紛争」トムクレーマー著、他】



PHD News

第40回 PHD インドネシア・スタディツアー

◆医師と行くインドネシア。 住民主体の健康コンテスト に参加しよう！

インドネシアのタベ村では生活習慣病が大きな課題の一つとなっています。PHD協会では、その改善のために地域住民の方たちと協働で健康コンテストを実施しています。約100名がくる健康コンテストに参加し、インドネシアの農村における健康課題に触れてみませんか？日本のお医者さんが同行してくれるので、現地の医療事情を深く知ることができます。

他にも元研修生が教師を務めるMISタベ小学校での交流プログラムもあります。希望があればあなたが授業をすることも可能です！他にも研修生の選考や住民主体の活動を学ぶことができます。

当会のツアーには日本で学んだ研修生たちが同行してくれますので、日本語でのコミュニケーションが可能です。

PHDインドネシア・スタディツアーの特色

- ・ 日本語を話せる元研修生が同行
- ・ 健康コンテストへの参加
- ・ 日本の医師が同行
- ・ 小学校での子どもたちとの交流、授業をやってみることもできます
- ・ 2019年度研修生選考
- ・ 村でのホームステイ、食事体験

一緒にディープなインドネシアの村人たちに会いに行きませんか？

問い合わせ申込み：株式会社 マイチケット

TEL: 06-4869-3444 FAX: 06-4869-5777

2019年度PHDスタディツアー予定

ミャンマー：2019年8月下旬（予定）

ネパール：9月上旬（予定）

タイ：2020年2月下旬（予定）

※各ツアーの旅程は詳細が決まり次第、順次発表させていただきます。



2018年度インドネシア・スタディツアーの様。地元の小学校の子どもたちがダンスで迎えてくれます。

PHDインドネシア・スタディツアーの情報

- ・ 日程：2019年7月17日～24日（7泊8日予定）
- ・ 参加条件：PHD協会の趣旨を理解し、旅に適應できる体調の方。小学校高学年以上。PHD協会の会員（正会員5,000円、または友の会1,000円）になっていただける方。PHD協会の指定する海外旅行保険に主催旅行会社で加入すること。
- ・ 旅行代金：169,000円(予定)
※学生割引 先着2名に限り1万円割引、親子割引あり（詳細はお問い合わせ下さい）

※詳しい旅行条件を説明した書面をお渡しいたしますので、事前にご確認の上お申し込みください。

2019年度 来日報告会のご案内

2019年4月上旬来日予定の37期研修生たちの来日報告会を行う予定です。1年の学びへの抱負、村での生活の様子などを発表させていただきます。お誘いあわせの上、ご参加ください。

日時：2019年6月1日（土）14:00～16:00

場所：神戸市内予定。（お手数ですが、PHD協会事務局までお問い合わせください。）

Tel: 078-414-7750 (PHD協会事務局)

資料代：300円

研修生の言動で驚いたこと ○月○日のPHD協会

インターン 酒井 研修生は甘え上手。研修旅行でサビナと一緒に寝た時、寒くて一緒に布団で就寝。すると自然に私の手を自分の腰に。思わずきゅん。見習おう。

国内研修生 遠藤 助け合い。ある日の昼食、予算オーバーな牛のお弁当を食べたいレニ。すかさずサビナが安い弁当を選んで調整。日常的な行為に感動。

国内研修生 清水 研修生は写真を撮られる時の角度を何パターンも持っている。なんでもない道端の花壇で約30分の撮影会。さすが自撮り大国出身。

職員 坂西 釜ヶ崎研修で朝5時から炊き出しに参加。800人分の食事作りで、モーモーさん獅子奮迅の働き。孤児院では3時半起床で毎日100名分の朝食をつくってきた強者、まさに朝飯前。

以上、丹波篠山からの距離順。



カトマンズの仏教寺院スワンプナート。たくさんの猿たちが暮しています。（2018年度ネパール・ツアーにて）

PHD
2021
40th
Anniversary

2021年PHD協会は創立40周年